

構想区域の設定について(案)

■ 国が示した構想区域の設定(ガイドライン抜粋)について

- 構想区域の設定に当たっては、現行の二次医療圏を原則としつつ、あらかじめ、人口規模、患者の受療動向、疾病構造の変化、基幹病院等までのアクセス時間の変化等将来における要素を勘案し検討する。
- 老人保健福祉圏域や障害保健福祉圏域など関連する区域との整合的な設定が必要
- 5疾病5事業において圏域を定める場合は、各疾病等で構築すべき医療提供体制に依りて設定することから、二次医療圏と一致する必要がないため、地域の実情に応じて柔軟に設定(次期医療計画の策定で一致させること)

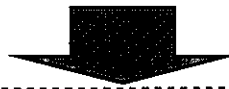
区分	具体例
高度急性期 一部の急性期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高度急性期は、診療密度が特に高い医療を提供することが必要となるため、<u>必ずしも当該構想区域で完結することを求めるものではない。</u> 緊急性の高い脳卒中、虚血性心疾患を含む救急医療については、アクセス時間等を考慮し、当該診療を行う医療機関がより近距離にある場合は、構想区域を越えて流出入することもやむを得ない。
急性期 回復期 慢性期	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>なるべく、構想区域内で対応することが望ましい。</u> 高齢者の肺炎や大腿骨頸部骨折など回復期につなげることの多い疾患については、構想区域内で対応する必要がある。

■ 設定のための論点

- 構想区域については、現行の2次医療圏を原則とすることになっているが、地域の実情等を踏まえ、見直しが必要かどうか。
- がん、脳卒中、急性心筋梗塞について、医療機能ごとの2次医療圏を越えた構想区域の設定が必要かどうか。

■ 設定に必要なデータ等

- 地理的条件(人口、面積、交通事情)、行政区域(広域市町村圏、学校区等)
- 各圏域毎の5疾病5事業に係る医療提供体制
- 機能別の受療動向(患者の流入、流出)
- 将来の医療需要(推計)
- その他医療提供体制 など



- 「構想区域」については、現行の6つの二次医療圏を踏襲し設定します。

【設定理由】

- ・ 各地域医療構想調整会議の意見として、圏域変更を望む意見がない。
- ・ 圏域内の基幹となる病院までのアクセス時間が概ね1時間以内である。
- ・ 基本的なサービス提供基盤として、医療圏域や老人保健福祉圏域や障害保健福祉圏域を設定しており、その整合を図る必要がある。

- なお、受療動向や調整会議等の意見を踏まえ、特に緊急性の高い、脳卒中、虚血性心疾患については、二次医療圏を越えて柔軟に運用します。

構想区域の検討資料

【丹後医療圏】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	丹後、中丹、 京都・乙訓、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療を実施できる医療機関がない。 北部医療センターが地域がん診療病院に指定。
脳卒中	丹後、中丹、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 急性期を担う病院がない。 北部医療センターの脳神経外科が365日24時間オンコール受入体制を確立し、舞鶴医療センターに迅速に患者搬送することにより、タイムラグなく手術を行う体制を確保。 丹後中央病院が地域リハビリ支援センターに指定され、地域リハビリのコーディネートを実施。
急性心筋梗塞	丹後、中丹、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 急性期に、PCI（冠動脈形成術）やバイパス術などに対応出来る医療機関がないため、他圏域への搬送体制と広域連携体制の整備が必要。 回復期の専門的医療機関もないため、在宅医療への移行を、医療機関と行政、在宅福祉サービス事業者とが円滑に連携し、適切なサービスを提供できる体制の整備が必要。
糖尿病	丹後、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の透析実施機関は5ヶ所。 圏域の患者の大半が圏内の医療機関を受診。
精神疾患	丹後、中丹、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 丹後圏域の精神科常勤医療機関は北部医療センターのみで精神科病床はなし。 精神科基幹病院は舞鶴医療センターであり、半数以上が中丹圏域、兵庫県等遠隔地へ通院している。措置入院時の精神保健指定医の確保が困難。

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	丹後、中丹、 京都・乙訓、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医がいるのは北部医療センター、久美浜病院のみ。 高度小児医療は中丹圏域、京都市内の病院を利用
周産期医療	丹後	<ul style="list-style-type: none"> 周産期医療に対応できる医療機関が少なく、病院は北部医療センター、弥栄病院の2病院のみ
救急医療	丹後、中丹、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期医療を担える病院は北部医療センターのみ。 脳・心臓は舞鶴市内か豊岡市内の医療機関に搬送
災害医療	丹後、中丹、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> 北部医療センターが地域災害医療センターとなっている。UPZ圏内に入る市町があり緊急被ばく医療体制の充実が必要
へき地医療	丹後	<ul style="list-style-type: none"> 北部医療センター、弥栄病院、久美浜病院が拠点病院として対応している

■ 関連データ

- ▶ 救急搬送時間（平均）（平成25年京都府消防安全課調べ）
 - ・ 34.8分（府平均＝31.9分、全国平均＝39.3分）

- ▶ 主な搬送先病院
 - ・ 京都府立医科大学附属 北部医療センター
 - ・ 丹後中央病院
 - ・ 京丹後市立弥栄病院

▶ 従事医師数（人口10万人対）（平成24年12月31日現在）

	全体	内科	外科	産婦人科・産科	小児科	整形外科	麻酔科	精神科	脳神経外科	心臓血管外科
丹後	161.7	47.1	15.7	9.8	9.8	18.6	3.9	2.0	2.9	0.0
府平均	296.4	56.7	16.5	9.5	16.2	20.0	7.8	13.1	5.5	2.8

▶ 従事看護師数（人口10万人対）及び充足率（％）

	正看護師	准看護師	充足率
丹後	830.1	347.4	42.7
府平均	943.9	216.8	77.4

※従事者数＝平成26年12月31日現在
 ※充足率＝平成27年4月現在（ナースセンター調べ）

- ▶ ドクターヘリ 1機（公立豊岡病院）

▶ 流入・流出の状況（人／日）

	丹後	中丹	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南	兵庫県	計
流出	—	72	*	25	*	*	34	131
流入	—	*	*	*	*	*	*	—

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 疾病状況（上位3疾病・2025年の推計）

- ① がん
- ② 成人肺炎
- ③ 筋骨格系疾患

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 人口構成（中段：推計人口、下段：2010年を100とした割合）

総人口（単位：人）			65歳以上人口（単位：人）			75歳以上人口（単位：人）		
2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年
104,850	84,578	66,281	33,254	33,407	28,851	18,665	20,877	18,448
(100.0)	(80.7)	(63.2)	(100.0)	(100.5)	(86.8)	(100.0)	(111.9)	(98.8)

▶ 介護サービスの提供見込み（出典：第7次京都府高齢者保健福祉計画）

	居宅サービス（回/週）			施設サービス（定員）		
	訪問介護	訪問看護	通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
H27年度	3,026	634	3,487	1,150	273	22
H28年度	3,166	663	3,476	1,206	276	22
H29年度	3,195	659	3,534	1,257	278	22

▶ 地域医療構想調整会議における主な意見

- ・ 構想区域は基本的に二次医療圏が適当。
- ・ 疾病等によっては二次医療圏域を越えた枠組みが必要。

構想区域の検討資料

【中丹医療圏】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	中丹、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域がん診療連携拠点病院2病院、がん診療推進病院1病院を指定 ・ 手術可能ながんが病院によって異なり、放射線治療ができる医療機関も限られている。一方高度な検査機器を導入している病院もあるため、それぞれが持つ機能を活かした連携体制の構築が必要
脳卒中	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳卒中クリティカルパスの導入等による病病、病診連携を推進
急性心筋梗塞	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 舞鶴共済病院では、24時間CCU（冠動脈疾患集中治療室）体制を整備し、圏域内の病院との連携を推進
糖尿病	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病専門医が少なく、携わる医師が限られており、病診連携に課題
精神疾患	中丹、兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかりつけ医、救急病院と精神科医療の連携（中丹G-Pネット）の取組が開始 ・ 認知症疾患医療センター（舞鶴医療センター）と関係機関との連携により、早期発見・早期治療に向けた取組を推進

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児科医が不足する中、病診連携を図りながら、小児医療体制を維持 ・ 小児科医の確保が必要
周産期医療	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期サブセンター（舞鶴医療センター）と周産期医療2次病院との連携強化 ・ 産婦人科医の確保が必要
救急医療	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則圏域内搬送 ・ 京都府及び兵庫県北部、鳥取県東部においてドクターヘリを運航 ・ 市立福知山市民病院に救命救急棟を整備
災害医療	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域災害医療センター（市立福知山市民病院）を中心に、圏域内の病院と連携して対応 ・ 原子力災害を想定した防災訓練や避難・受入の体制整備に課題
へき地医療	中丹	<ul style="list-style-type: none"> ・ へき地医療拠点病院（4病院）を中心に各病院からの協力により、へき地診療所（4診療所）への支援体制を構築

■ 関連データ

- ▶ 救急搬送時間（平均）（平成25年京都府消防安全課調べ）
 - ・ 31.7分（府平均＝31.9分、全国平均＝39.3分）

- ▶ 主な搬送先病院
 - ・ 市立福知山市民病院
 - ・ 舞鶴共済病院
 - ・ 綾部市立病院

▶ 従事医師数（人口10万人対）（平成24年12月31日現在）

	全体	内科	外科	産婦人科・産科	小児科	整形外科	麻酔科	精神科	脳神経外科	心臓血管外科
中丹	210.6	45.2	16.4	8.4	12.9	14.9	4.5	13.4	3.5	1.5
府平均	296.4	56.7	16.5	9.5	16.2	20.0	7.8	13.1	5.5	2.8

▶ 従事看護師数（人口10万人対）及び充足率（％）

	正看護師	准看護師	充足率
中丹	1,036.0	317.5	66.5
府平均	943.9	216.8	77.4

※従事者数＝平成26年12月31日現在
 ※充足率＝平成27年4月現在（ナースセンター調べ）

- ▶ ドクターヘリ 1機（公立豊岡病院）

▶ 流入・流出の状況（人／日）

	丹後	中丹	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南	福井県	兵庫県	計
流出	*	—	25	74	*	*	—	67	166
流入	72	—	*	*	*	*	29	35	136

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 疾病状況（上位3疾病・2025年の推計）

- ① がん
- ② 成人肺炎
- ③ 循環器系疾患

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 人口構成（中段：推計人口、下段：2010年を100とした割合）

総人口（単位：人）			65歳以上人口（単位：人）			75歳以上人口（単位：人）		
2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年
204,157	178,181	150,598	56,086	58,585	54,293	30,512	36,454	31,963
(100.0)	(87.3)	(73.8)	(100.0)	(104.5)	(96.8)	(100.0)	(119.5)	(104.8)

▶ 介護サービスの提供見込み（出典：第7次京都府高齢者保健福祉計画）

	居宅サービス（回/週）			施設サービス（定員）		
	訪問介護	訪問看護	通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
H27年度	9,190	1,635	5,406	1,352	837	84
H28年度	9,525	1,814	4,926	1,407	842	86
H29年度	9,899	1,990	5,243	1,417	901	88

▶ 地域医療構想調整会議における主な意見

- ・ 中丹圏域は完結型と言われているが、現場はかなり苦勞している。
- ・ 中丹圏域から兵庫県に慢性期の患者が流出している現状があるが、新たな病床の開設もあり、今後は流出がある程度防げると考える。
- ・ 福井県・兵庫県からの患者の流入数は、国の推計値より実際の患者数の方がもっと多く感じる。

構想区域の検討資料

【南丹医療圏】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	南丹、京都・乙訓	・ 公立南丹病院が、地域がん診療病院の指定を受け、従事者研修や診療支援ネットワークの強化、患者・家族の相談窓口の設置、さらに平成27年10月からは放射線治療を開始する等、順次地域がん診療病院の機能充実に向けて取組を進めている。
脳卒中	南丹、京都・乙訓	・ 管内に回復期リハビリ病棟はなかったが、平成27年12月に南丹病院に整備された。
急性心筋梗塞	南丹、京都・乙訓	・ 急性期は概ね圏域内で発症後の速やかな搬送・専門治療を実施
糖尿病	南丹、京都・乙訓	・ 専門外来及び糖尿病内科を標榜するのは1病院、3診療所。透析を行うのは上記以外の病院・診療所となり、4カ所ある。
精神疾患	南丹、中丹、京都・乙訓	・ 精神科病床がなく、他圏域の医療機関に入院している状況である。 ・ 精神科外来については、4病院、3診療所で行っている。

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	南丹、京都・乙訓	○ 外来は各市町毎に病院や診療所があるが、入院は南丹病院のみとなる ・ また、小児救急に関しては拠点病院方式をとり、南丹病院小児科医師の連日当直で対応している。
周産期医療	南丹、京都・乙訓	○ 出産が出来るのは3カ所。ハイリスク分娩は南丹病院が担うが、超ハイリスク分娩は圏域外の病院と連携している。
救急医療	南丹、京都・乙訓	○ 原則圏域内搬送。中山間地域を含み広域のため通報から搬送まで時間を要することあり。 ・ 休日夜間急患センター：1カ所 ・ 救急告示病院（二次）：5カ所（各市町にあり）
災害医療	南丹	○ 南丹病院が地域災害拠点病院の指定を受け、DMATも編成している。
へき地医療	南丹	○ 無医地区が3カ所（南丹市2地区、京丹波町1地区）。へき地診療所は歯科を含めて3カ所あり、拠点病院の南丹病院及び京丹波町病院が医師を派遣している。

■ 関連データ

- ▶ 救急搬送時間（平均）（平成25年京都府消防安全課調べ）
 - ・ 41.1分（府平均＝31.9分、全国平均＝39.3分）

- ▶ 主な搬送先病院
 - ・ 南丹病院
 - ・ 亀岡シミズ病院
 - ・ 亀岡市立病院

▶ 従事医師数（人口10万人対）（平成24年12月31日現在）

	全体	内科	外科	産婦人科・産科	小児科	整形外科	麻酔科	精神科	脳神経外科	心臓血管外科
南丹	170.7	46.6	14.1	4.9	12.7	16.9	3.5	2.1	5.6	0.0
府平均	296.4	56.7	16.5	9.5	16.2	20.0	7.8	13.1	5.5	2.8

▶ 従事看護師数（人口10万人対）及び充足率（％）

	正看護師	准看護師	充足率
南丹	704.1	188.0	55.0
府平均	943.9	216.8	77.4

※従事者数＝平成26年12月31日現在
 ※充足率＝平成27年4月現在（ナースセンター調べ）

- ▶ ドクターヘリ 2機（済生会滋賀県病院、阪大病院）

▶ 流入・流出の状況（人／日）

	丹後	中丹	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南	計
流出	*	*	—	311	*	*	311
流入	*	25	—	111	17	*	153

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 疾病状況（上位3疾病・2025年の推計）

- ① がん
- ② 循環器系疾患
- ③ 成人肺炎

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 人口構成（中段：推計人口、下段：2010年を100とした割合）

総人口（単位：人）			65歳以上人口（単位：人）			75歳以上人口（単位：人）		
2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年
143,345	127,336	106,900	35,167	43,095	40,810	17,755	25,289	24,942
(100.0)	(88.8)	(74.6)	(100.0)	(122.5)	(116.0)	(100.0)	(142.4)	(140.5)

▶ 介護サービスの提供見込み（出典：第7次京都府高齢者保健福祉計画）

	居宅サービス（回/週）			施設サービス（定員）		
	訪問介護	訪問看護	通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
H27年度	4,507	449	3,269	888	558	118
H28年度	5,016	484	2,826	888	558	118
H29年度	5,489	509	3,101	947	558	118

▶ 地域医療構想調整会議における主な意見

- ・ 現状の圏域でよい。京都市域への流出はあるが、南丹病院を中核とした圏域の維持が相当。病院同士の連携による機能配分、機能充実が必要。
- ・ 超高度急性期などは大学病院などの研究機関に任せ、各圏域においては中核病院が高度急性期機能を維持することが重要。

構想区域の検討資料

【京都・乙訓医療圏（京都市域）】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	京都・乙訓	○がん治療を実施する病院が多くあり、また、放射線治療等に対応可能な病院も集中。 ほとんどの患者は京都市域で受療。 ・都道府県がん診療連携拠点病院：2病院 ・地域がん診療連携拠点病院：5病院
脳卒中	京都・乙訓	○急性期、回復期、維持期の各ステージに対応できる病院があり、ほとんどの患者は、京都市域で受療。 ・急性期対応：14病院 ・回復期対応：24病院 ・維持期対応：48病院
急性心筋梗塞	京都・乙訓	○急性期、回復期の各ステージに対応できる病院があり、ほとんどの患者は、京都市域で受療。 ・急性期対応：17病院 ・回復期対応：13病院
糖尿病	京都・乙訓	○約9割の患者が、京都市域で受療。
精神疾患	京都・乙訓、 山城北	○精神科病床を有する病院を中心に救急、専門医療などの対応を実施。 ・精神科救急対応（輪番制）：7病院 ・アルコール・薬物依存症対応：3病院 ・うつ病対応：7病院

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	京都・乙訓	○休日急病診療所による初期救急を実施するとともに、病院群輪番制による連日対応を実施している。
周産期医療	京都・乙訓	○周産期医療情報システムや周産期医療情報提供書の運営により、平成9年から診療所も含めた総合的な周産期医療ネットワークを構築。総合周産期母子医療センターを中心に、必要名医療を提供。 ・総合周産期母子医療センター：1病院 ・サブセンター：1病院 ・周産期2次病院：7病院
救急医療	京都・乙訓	○初期救急、二次救急、三次救急のそれぞれの医療体制に応じた対応を実施 ・休日夜間急患センター（初期）：1箇所 ・救急告示病院（二次）：54病院 ・救命救急センター（三次）：4病院
災害医療	京都・乙訓	○災害拠点病院や救急災害医療チーム（DMAT）指定病院等を中心に、災害時における医療・救護活動体制を構築 ・基幹災害医療センター：1病院 ・地域災害医療センター：1病院 ・救急災害医療チーム指定病院：7病院
へき地医療	京都・乙訓	○京北病院が拠点病院となり対応

構想区域の検討資料

【京都・乙訓医療圏（乙訓地域）】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	京都・乙訓	・ 済生会京都府病院が、平成23年3月に「京都府がん診療推進病院」に指定されている。
脳卒中	京都・乙訓	・ リハビリテーションが可能な5病院のうち4病院が脳血管疾患等リハビリテーション実施機能を有する。急性期以後の回復期病棟はない。
急性心筋梗塞	京都・乙訓	・ 済生会京都府病院の循環器科では、概ね24時間心臓カテーテル検査が可能。 ・ 協会けんぽ加入者の虚血性心疾患においては、高度急性期では67%、急性期では70%が京都市内の病院に入院している現状にある。
糖尿病	京都・乙訓	・ 済生会京都府病院に糖尿病科専門医が常勤している。
精神疾患	京都・乙訓	・ 長岡病院と西山病院の2カ所の精神科病床を持った病院があり、精神科・心療内科を標榜する診療所も複数存在する。

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	京都・乙訓	・ 小児科標榜診療所がかかりつけ医を担っている。 休日の診察については、市町・医師会の協力により設置されている乙訓休日応急診療所が対応し、夜間は、京都・乙訓病院群輪番制。 ・ 小児救急受入先は74%が京都市内等の管外病院である。
周産期医療	京都・乙訓	・ 分娩を取り扱う医療機関が1病院・2診療所と少なく、京都市内等の管外分娩が約6割を占めている。
救急医療	京都・乙訓	・ 初期救急医療として、休日診療は内科・小児科を乙訓休日応急診療所が、外科系を乙訓医師会に委託し、在宅当番医制で対応し、二次救急医療として、管内の病院が京都・乙訓病院群輪番制に編入されている。
災害医療	京都・乙訓	・ 市町地域防災計画に災害時医療救助計画が定められ、市町と乙訓医師会の間で、医療救護班の派遣等の災害時活動協定を締結している。 ・ 地域災害拠点病院である済生会京都府病院では、DMATを備えている。
へき地医療	—	—

構想区域の検討資料

【京都・乙訓医療圏】

■ 関連データ

- ▶ 救急搬送時間（平均）（平成25年京都府消防安全課調べ）
・ 32.2分（府平均＝31.9分、全国平均＝39.3分）

- ▶ 主な搬送先病院
・ 京都第二赤十字病院
・ 京都第一赤十字病院
・ 洛和会音羽病院
・ 京都市立病院

乙訓消防組合消防本部
による主な搬送先病院
・ 済生会京都府病院
・ 新河端病院
・ 京都桂病院

- ▶ 従事医師数（人口10万人対）（平成24年12月31日現在）

	全体	内科	外科	産婦人科・産科	小児科	整形外科	麻酔科	精神科	脳神経外科	心臓血管外科
京都・乙訓	374.1	65.3	18.6	11.8	19.1	23.4	10.3	15.4	6.4	4.1
府平均	296.4	56.7	16.5	9.5	16.2	20.0	7.8	13.1	5.5	2.8

- ▶ 従事看護師数（人口10万人対）及び充足率（%）

	正看護師	准看護師	充足率
京都・乙訓	1,056.1	214.1	80.0
府平均	943.9	216.8	77.4

※従事者数＝平成26年12月31日現在

※充足率＝平成27年4月現在（ナースセンター調べ）

- ▶ ドクターヘリ 2機（済生会滋賀県病院、阪大病院）

- ▶ 流入・流出の状況（人／日）

	丹後	中丹	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南	滋賀県	大阪府	兵庫県	奈良県	計
流出	*	*	111	—	453	*	64	162	*	10	801
流入	25	74	311	—	936	75	331	249	11	*	2,013

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

- ▶ 疾病状況（上位3疾病・2025年の推計）

- ① がん
- ② 成人肺炎
- ② 循環器系疾患

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

- ▶ 人口構成（中段：推計人口、下段：2010年を100とした割合）

総人口（単位：人）			65歳以上人口（単位：人）			75歳以上人口（単位：人）		
2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年
1,623,308	1,564,641	1,408,489	372,976	473,155	515,517	175,321	301,475	297,473
(100.0)	(96.4)	(86.8)	(100.0)	(126.9)	(138.2)	(100.0)	(172.0)	(169.7)

- ▶ 介護サービスの提供見込み

（出典：第7次京都府高齢者保健福祉計画）

	居宅サービス（回/週）			施設サービス（定員）		
	訪問介護	訪問看護	通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
H27年度	62,918	8,559	35,586	5,687	4,193	2,501
H28年度	64,102	9,233	25,647	5,842	4,353	2,501
H29年度	65,439	9,972	28,197	6,015	4,524	2,501

- ▶ 地域医療構想調整会議における主な意見

（乙訓）高齢者だけでも乙訓圏域で自己完結できるよう病床の配分を検討してほしい。

構想区域の検討資料

【山城北医療圏】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	山城北、京都・乙訓、大阪府	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内のがん治療は、腫瘍摘出術や化学療法を実施できる病院は比較的多いが、放射線治療ができる病院は2病院に限られている。 ・地域がん診療病院及び京都府がん診療連携病院として2病院を指定
脳卒中	山城北、京都・乙訓、	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリ病棟は4カ所（174床）あるが、病床数が不足
急性心筋梗塞	山城北、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・集中的なりハビリの実施体制が不十分
糖尿病	山城北、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病専門医のいる病院は9病院、糖尿病内科を標榜している病院は3病院である。 ・腎透析ができる医療機関は7カ所である。
精神疾患	山城北、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の病床を有する病院は5病院1,042病床、精神科を標榜する一般診療所は18診療所。

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	山城北、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・平日昼間は、主に山城北医療圏の病院・診療所の小児科で対応。休日及び平日夜間の小児救急医療については、宇治徳洲会病院、田辺中央病院及び男山病院の輪番制並びに休日診療所により対応しているが、高度救急医療は、京都・乙訓医療圏などで対応。
周産期医療	山城北、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療については、主に山城北医療圏の産科又は産婦人科標榜病院及び診療所で対応。2次医療は、主に宇治徳洲会病院及び田辺中央病院で対応しているが、低体重児・重度障害児などリスクのある出産については、京都・乙訓医療圏などで対応。
救急医療	山城北、京都・乙訓	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療は、主に山城北医療圏の救急告示病院で対応しているが、高度救急医療については、宇治徳洲会病院や京都・乙訓医療圏などで対応。
災害医療	山城北、京都・乙訓 大阪など	<ul style="list-style-type: none"> ・災害医療については、災害の規模によって異なる対応を想定。比較的小規模な場合は山城北医療圏の2つの災害拠点病院を中心に対応、大規模広域災害の場合は京都・乙訓医療圏などを含む広域応援態勢による対応を想定。
へき地医療	山城北	<ul style="list-style-type: none"> ・山城北医療圏の「無医地区」は宇治市笠取地域のみであり、現状は、宇治市内の病院等より対応。

■ 関連データ

- ▶ 救急搬送時間（平均）（平成25年京都府消防安全課調べ）
 ・ 26.2分（府平均＝31.9分、全国平均＝39.3分）

- ▶ 主な搬送先病院
 ・ 宇治徳洲会病院
 ・ 第二岡本総合病院
 ・ 田辺中央病院

▶ 従事医師数（人口10万人対）（平成24年12月31日現在）

	全体	内科	外科	産婦人科・産科	小児科	整形外科	麻酔科	精神科	脳神経外科	心臓血管外科
山城北	165.8	40.2	12.1	3.8	10.6	13.9	4.0	13.5	4.7	1.1
府平均	296.4	56.7	16.5	9.5	16.2	20.0	7.8	13.1	5.5	2.8

▶ 従事看護師数（人口10万人対）及び充足率（％）

	正看護師	准看護師	充足率
山城北	698.9	190.9	73.1
府平均	943.9	216.8	77.4

※従事者数＝平成26年12月31日現在
 ※充足率＝平成27年4月現在（ナースセンター調べ）

- ▶ ドクターヘリ 2機（済生会滋賀県病院、阪大病院）

▶ 流入・流出の状況（人／日）

	丹後	中丹	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南	大阪府	奈良県	計
流出	*	*	17	936	—	47	204	13	1,217
流入	*	*	*	453	—	153	215	—	821

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 疾病状況（上位3疾病・2025年の推計）

- ① がん
- ② 成人肺炎
- ③ 循環器系疾患

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 人口構成（中段：推計人口、下段：2010年を100とした割合）

総人口（単位：人）			65歳以上人口（単位：人）			75歳以上人口（単位：人）		
2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年
445,855	422,830	370,607	97,275	128,706	131,647	39,942	80,356	73,361
(100.0)	(94.8)	(83.1)	(100.0)	(132.3)	(135.3)	(100.0)	(201.2)	(183.7)

▶ 介護サービスの提供見込み（出典：第7次京都府高齢者保健福祉計画）

	居宅サービス（回/週）			施設サービス（定員）		
	訪問介護	訪問看護	通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
H27年度	15,039	2,320	7,566	1,713	1,236	325
H28年度	15,936	2,551	7,683	1,766	1,269	325
H29年度	17,103	2,831	8,159	1,791	1,289	325

▶ 地域医療構想調整会議における主な意見

- ・ 医療圏で完結させること自体に無理がある。生活圏も考慮し、もっと広い医療圏を単位とした検討も必要。
- ・ 京都市との間で患者の流出が多いため、現行の二次医療圏にとらわれず、柔軟に対応すべき。

構想区域の検討資料

【山城南医療圏】

■ 5 疾病 5 事業における圏域の検討

▶ 5 疾病

区分	受療動向	医療提供体制の現状
がん	山城南、山城北、 京都・乙訓、奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年12月に山城総合医療センターが、「京都府がん診療連携病院」に指定 平成21年4月に山城総合医療センターに「緩和ケアチーム」が設置された
脳卒中	山城南、山城北、 奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 急性期は、圏域内でおおむね対応が可能 平成27年4月に学研都市病院に回復期リハビリ病床（50床）が整備された。今後、新たに50床の回復期リハビリ病床を整備予定。
急性心筋梗塞	山城南、奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 急性期及び回復期は、圏域内で概ね対応可能
糖尿病	山城南、奈良県、 大阪府	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内において重度合併症を含め概ね対応可能 透析ベット数は、病院と診療所を合わせて71床あるが、今後、患者の増加が見込まれるため、医療従事者の確保が必要
精神疾患	山城南、山城北、 奈良県、大阪府	<ul style="list-style-type: none"> 精神病床がなく、他圏域や他府県へ入院している状況であるが、府全体の既存病床数は既に基準病床数を超え、新たな病床は設置できない状況であるとともに、二次医療圏単位で地域偏在がある

▶ 5 事業

区分	受療動向	医療提供体制の現状
小児医療	山城南、山城北	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の小児科医師の増員が図られるまでの間は、山城北（田辺中央病院、宇治徳洲会病院）とともに小児救急医療体制を確保
周産期医療	山城南、山城北、 京都・乙訓、奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内産科医師7名、出産できる医療機関2ヶ所の現状から、奈良県を含めた広圏域で周産期医療体制を確保
救急医療	山城南、山城北、 京都・乙訓、奈良県	<ul style="list-style-type: none"> 原則圏域内搬送。高度急性期で特に緊急を要する心臓、脳はドクヘリを活用。 ヘリポート所有病院…府立医大、第一日赤、宇治徳洲会病院 等
災害医療 へき地医療	山城南	<ul style="list-style-type: none"> いずれも山城総合医療センターが対応 山城総合医療センターはDMAT（医師・事務）を編成。 へき地（東部地域）においては、三重県、滋賀県を含め広域受診の現状

■ 関連データ

- ▶ 救急搬送時間（平均）（平成25年京都府消防安全課調べ）
 ・ 37.4分（府平均＝31.9分、全国平均＝39.3分）

- ▶ 主な搬送先病院（相楽中部消防）（精華消防）
 ・ 山城総合医療センター ・ 山城総合医療センター
 ・ 田辺中央病院 ・ 田辺中央病院
 ・ 学研都市病院 ・ 学研都市病院
 ・ 高の原病院 ・ 精華国保病院

▶ 従事医師数（人口10万人対）（平成24年12月31日現在）

	全体	内科	外科	産婦人科・産科	小児科	整形外科	麻酔科	精神科	脳神経外科	心臓血管外科
山城南	132.7	42.2	7.8	6.0	13.8	11.2	1.7	3.4	3.4	0.0
府平均	296.4	56.7	16.5	9.5	16.2	20.0	7.8	13.1	5.5	2.8

▶ 従事看護師数（人口10万人対）及び充足率（％）

	正看護師	准看護師	充足率
山城南	517.4	99.2	68.4
府平均	943.9	216.8	77.4

※従事者数＝平成26年12月31日現在
 ※充足率＝平成27年4月現在（ナースセンター調べ）

- ▶ ドクターヘリ 2機（済生会滋賀県病院、阪大病院）

▶ 流入・流出の状況（人／日）

	丹後	中丹	南丹	京都・乙訓	山城北	山城南	奈良県	計
流出	*	*	*	75	153	—	206	434
流入	*	*	*	*	47	—	20	67

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 疾病状況（上位3疾病・2025年の推計）

- ① がん
- ② 消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓系疾患
- ③ 循環器系疾患
- ③ 筋骨格系疾患

出典：地域医療構想策定のための将来の医療需要推計データ（平成27年7月厚生労働省提供）

▶ 人口構成（中段：推計人口、下段：2010年を100とした割合）

総人口（単位：人）			65歳以上人口（単位：人）			75歳以上人口（単位：人）		
2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年	2010年	2025年	2040年
114,577	121,894	120,711	22,197	32,777	38,026	9,948	19,055	20,882
(100.0)	(106.4)	(105.4)	(100.0)	(147.7)	(171.3)	(100.0)	(191.5)	(209.9)

▶ 介護サービスの提供見込み（出典：第7次京都府高齢者保健福祉計画）

	居宅サービス（回/週）			施設サービス（定員）		
	訪問介護	訪問看護	通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設
H27年度	2,804	774	2,831	457	275	55
H28年度	2,924	863	3,161	459	277	53
H29年度	3,061	914	3,386	506	281	51

▶ 地域医療構想調整会議における主な意見

- ・ 奈良、大阪への通勤が多く、山城南圏域で完結させる結論には至らない。ただし、高齢者の増加に向け慢性期は住み慣れた地域の医療機関で受診のできる仕組みを交通手段の確保も含め、医療プランの枠作りのためのネットワークの構築が必要。